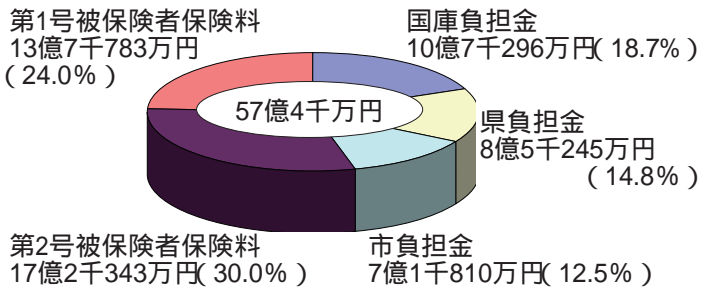




● 介護保険給付費の財源内訳 (グラフ)



● サービス種類別利用状況

サービス種類名	給付費	前年度比 (%)
居宅サ - ビス	27億6,452万3,932円	10.8
訪問介護	4億1,116万2,090円	2.8
訪問入浴介護	3,440万2,265円	0.7
訪問看護	1億4,470万6,603円	7.8
訪問リハビリ	404万1,301円	34.4
通所介護	9億935万3,521円	15.8
通所リハビリ	2億5,273万1,582円	18.5
福祉用具貸与	1億5,900万7,157円	4.6
短期入所生活介護	2億9,033万8,449円	13.5
短期入所療養介護(老健)	2,815万1,455円	1.6
短期入所療養介護(療養型)	18万2,310円	
居宅療養管理指導	2,110万6,080円	9.2
特定施設入居者生活介護	1億4,798万4,451円	8.9
特定福祉用具販売	1,012万3,101円	12.0
居宅介護住宅改修費	4,060万6,187円	5.3
居宅介護支援・介護予防支援	3億1,062万7,380円	20.0
地域密着型サービス	3億1,431万8,836円	13.0
認知症対応型通所介護	3,635万6,949円	8.4
認知症対応型共同生活介護	1億9,170万3,230円	7.7
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	8,625万8,657円	42.5
施設サービス	23億4,010万9,310円	6.4
介護老人福祉施設	12億3,823万3,843円	6.9
介護老人保健施設	7億5,142万5,556円	19.4
介護療養型医療施設	3億5,044万9,911円	14.7
計(+ +)	54億1,895万2,078円	9.0
審査支払手数料	845万3,244円	6.7
高額介護サ - ビス等費	8,905万6,046円	16.8
特定入所者介護サービス等費	2億2,903万2,680円	11.6
保険給付費 + + +	57億4,549万4,048円	9.2

● 農業分野で栄えある受賞

10月20日 に開催された「彩の国さいたまお茶まつり狭山茶品評会褒章授与式・仕上茶の部」で、香気や味など、すべての項目が評価されて、奥富雅浩さん(加佐志)が農林水産大臣賞を受賞されました。

また、23日 に開催された「埼玉農業大賞表彰式」では、狭山市さといもの高品質・安定生産に貢献した畑地かんがい施設の整備やみずな産地の礎を築いた功績などにより、諸口栄治・ふく代さんご夫妻(青柳)が地域貢献部門大賞を受賞されました。おめでとうございます。



奥富雅浩さん

諸口栄治・ふく代さんご夫妻

問合せ農政課へ内線2532

● 消防団協力事業所表示証を交付しました

10月1日、市内で初めて消防団協力事業所に認定された大河原工業株式会社と埼玉県立狭山工業高等学校に表示証が交付されました。

この消防団協力事業所表示制度は、消防団に積極的に協力している事業所に表示証を交付し、地域での当該事業所の社会貢献を広報するとともに、市民や他の事業所からの理解を一層深め、消防団員の入団促進を図るための制度です。

「地域を守る信頼の企業」として、ぜひ、多くの事業所の皆さんの参加をお待ちしています。



問合せ消防総務課へ 2953-7112

市長随想 娛



狭山市長 仲川幸成
似顔絵・池原昭治氏

灯の川によせて

先月10日、入間川河川敷において、灯の川2010が開催されました。上流の西川材の間伐材で作った森のろうそく200本と七夕まつりの竹を利用した竹のろうそく1千本を灯すなか、楽器の演奏やパフォーマンス、模擬店の出店など、秋の夕べのひとときを過ごすにふさわし

平成21年度 介護保険の利用状況

介護保険制度は、社会全体で介護を支える仕組みとして平成12年度にスタートしました。18年度に大幅な制度改正が行われ、要介護・要支援認定の見直しや介護予防事業、地域包括支援センター事業などを創設して、予防重視型システムへの転換を図りました。今月は、21年度の介護保険の利用状況をお知らせします。



■要介護 要支援 認定率は12.3% 20年度比174人増

要介護度別の各サービス利用者数は、認定を受けている方4,325人(22年3月末現在)のうち、居宅サービス利用者は2,360人、地域密着型サービス(狭山市民を対象としたサービス)利用者は119人、施設サービス利用者は751人で、全体では3,230人(認定者中74.7%)の方が介護保険サービスを利用しています。

介護サービスを利用すると、利用料の9割相当が介護保険から給付されます。平成21年度の総額は、グラフ1のとおり約57億4千万円で、前年度と比べると約4億8千5百万円の増となりました。この財源は、40歳以上の方の保険料と国・県・市の公費でまかなわれています。なお、このうち、第1号被保険者(65歳以上)の保険料が全体の24%、第2号被保険者(40歳~64歳)が30%を占めています。

■通所型介護予防事業「元気アップ教室・ちゃきちゃき倶楽部」

要介護状態などになるおそれが高い65歳以上の方を対象に、狭山台地区と奥富地区に開設した会場で介護予防事業を行いました。各教室で、それぞれ運動器機能・栄養改善・口腔機能の向上を図る総合プログラムの「総合コース」を週2回・2時間・3か月(23回)を1コースとして23コース開催し、さらに栄養改善・口腔機能の向上を図るプログラムの「かむかむコース」を週1回・2時間・3か月(10回)

を1コースとして6コース開催しました。参加者は386名(総合278名、かむかむ108名)でした。

■地域包括支援センターは高齢者の総合窓口

地域包括支援センターは、5つの日常生活圏域ごとに設置され、主任ケアマネジャーや保健師、社会福祉士などの専門職員が連携をとりながら、総合的に高齢者の皆さんの支援を行っています。

地域包括支援センターの業務

高齢者の皆さんや高齢者のご家族からの相談に応じ、必要な支援を行います

要介護状態になるおそれの高い高齢者や要介護認定で「要支援1」「要支援2」の認定を受けた方を対象に、一人ひとりの生活に合わせた介護予防ケアプランを作成します

高齢者に対する虐待防止への対応や成年後見制度の活用を支援し、高齢者の権利を守ります
お気軽にご相談ください

市では、サービスの質の向上と計画的な介護サービスの整備に一層努めます。介護予防事業や地域包括支援センターの利用など、介護保険で不明な点がありましたら、お気軽にご相談ください。
問合せ介護保険課へ内線1551

●高齢化率と要介護・要支援認定率の比較

区分	年度	全国平均 (%)	県平均 (%)	市 (%)
高齢化率	20	22.2	18.8	20.0
	21	22.8	19.6	21.2
要介護・要支援認定率(認定者数/第1号被保険者数)	20	16.0	12.6	12.3
	21	16.2	12.7	12.3

高齢化率は各年度1月1日現在、要介護・要支援認定率は、各年度12月末日現在

●要介護度別の要介護・要支援認定者数

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計(人)
第1号被保険者	347	410	1,054	741	674	530	383	4,139
65~75歳未満	59	66	205	129	90	80	69	698
75歳以上	288	344	849	612	584	450	314	3,441
第2号被保険者	9	16	55	29	33	24	20	186
総数	356	426	1,109	770	707	554	403	4,325
構成比(%)	8.2	9.9	25.6	17.8	16.4	12.8	9.3	100.0

(平成22年3月末現在)

市長の主な動き

- 10/1・4...辞令交付式 10/1・19・25...百歳訪問 10/1・5・9・12・13...ふれあい市民懇話会
- 10/2・23...川越総合卸売市場(株)臨時取締役会 10/2...市内幼稚園運動会 10/3・10...各地区体育祭 10/5...埼玉県市長会役員会 10/7・8...全国都市問題会議 10/10・24...各地区敬老会 10/12...埼玉県市長会定期総会・市長研修会 10/14・28...定例庁議 10/21・22...全国市長会関東支部役員会 10/25...白寿訪問



狭山市の中央を流れる母なる川「入間川」は、古くは地域の産業や交通の要として人や物の行き交う中心で、歴史書や狂言にも登場しております。その秘められた多くの歴史やロマンを生かし、後世につなぐ新たな企画を生み出すことこそ私の望むまちづくりであります。

たとえば、入間川を天の川に見立てて兩岸に星竹のろくそくを配し、彦星と織姫の物語を表現したり、平安末期源頼朝から逃れて鎌倉を脱出後、入間川の河原で追っ手に討たれた源義高(清水冠者)の霊を、松明の火や煙で、義高が目指した嵐山町の菅谷館に送るなどの演出が加われば、なお一層の深みが増し、内外に誇れるイベントへと進化していくのではないのでしょうか。